

防虫科学

季刊

第 37 卷—III

原 著

11. イエバエ *Musca domestica nebulosa* におけるセビン抵抗性の遺伝
Musharraf A. Ansari..... 83
12. 新殺虫性シクロプロパンカルボン酸エステル (第6報) 新しい合成ピレスロイド,
ブテスリンの殺虫効果について
林 晃史・田中一郎・首田 馨..... 86
13. 高知県下におけるイエバエの殺虫剤感受性について
林 晃史・向 暁・松崎沙和子..... 91
14. カイコ蛾頭部より抽出された脳ホルモン
宇尾淳子..... 93
15. ピレスロイド系化合物の研究 第3報 ピレスロイドの光安定性
安部八洲男・津田小亮・藤田義雄.....102
16. 浸透殺虫剤の施用法に関する基礎的研究 IV. ホウレンソウにおける vamidothion の
残留とその半減期について
石黒丈雄・豊田一郎・斎藤哲夫.....111

綜 説

除草剤の作用機作—光合成阻害剤を中心とした最近の文献から 炭田精造.....116

抄 録

.....115, 122

財団法人 防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭和47年8月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

藤 田 稔 夫 深 海 浩 井 上 雄 三 石 井 象 二 郎
中 島 稔 高 橋 史 樹 高 橋 正 三 内 田 俊 郎

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究論文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
2. 論文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
3. 邦文原稿は原則としてA4判横書原稿用紙(400字詰)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または背線方眼紙にいいいに墨書し、原稿とは別紙とする。不完全な図はトレーシング費用を負担してもらうことがある。
5. 動植物の学名の下には_____を付ける(例: Chilo suppressalis イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は論文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には~~~~~を付ける(例: (1) Stevenson E. and Wyatt G. R.: Archs. Biochem. Biophys. 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
8. 別刷は50部贈呈する。それ以上の希望数に対しては50部を単位とし、実費を申受ける(当分刷上がり1頁6円の計算による)。
9. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部
農業研究施設 石井象二郎 (075) 751-2111 内 6305

- 18, 365 (1967).
- 25) Moreland, D. E. and W. J. Blackmon: *Weed Sci.*, 18, 419 (1970).
- 26) Moreland, D. E., W. J. Blackmon, H. G. Todd and F. S. Tarmer: *Weed Sci.*, 18, 636 (1970).
- 27) Moreland, D. E. and M. R. Boots: *Plant Physiol.*, 47, 53 (1971).
- 28) Nakagawa, M., K. Kawakubo and M. Ishida: *Agr. Biol. Chem.*, 35, 764 (1971).
- 29) 大矢恒彦, 石田精一: 雑草研究, No. 11, 58 (1971).
- 30) Robertson, M. M. and R. C. Kirkwood: *Weed Res.*, 10, 94 (1970).
- 31) 白川愨夫: 雑草研究, No. 9, 11 (1969).
- 32) Sikka, H. C., J. Carroll and G. Zweig: *Pest. Biochem. Physiol.*, 1, 381 (1971).
- 33) Sikka, H. C., R. H. Shimabukuro and G. Zweig: *Plant Physiol.*, 49, 381 (1972).
- 34) Still, G. G., D. G. Davis and G. L. Zander: *Plant Physiol.*, 46, 307 (1970).
- 35) Sr. John, J. B.: *Weed Sci.*, 19, 274 (1971).
- 36) 鈴木幸男, 西澤吉彦編: 最新農薬概論, 廣川書店 (1970).
- 37) Tsay, S.-F., J.-M. Lee and J. Q. Lynd: *Weed Sci.*, 18, 596 (1970).
- 38) Walsh, G. E. and T. E. Grow: *Weed Sci.*, 19, 568 (1971).
- 39) Wiedman, S. J. and A. P. Appleby: *Weed Res.*, 12, 65 (1972).
- 40) Wu, M. T., B. Singh and D. K. Salunkhe: *Phytochem.*, 10, 2025 (1971).
- 41) Wu, M. T., B. Singh and D. K. Salunkhe: *Plant Physiol.*, 48, 517 (1971).
- 42) Zweig, G., J. Carroll, I. Tamas and H. C. Sikka: *Plant Physiol.*, 49, 385 (1972).
- 43) Zweig, G.: *Residue Rev.*, 25, 69 (1969).

抄 録

ヤガの1種 *Pseudaletia separata* の雄の生産するフェロモンの化学と作用

Chemistry and Function of a Pheromone Produced by the Male of the Southern Armyworm *Pseudaletia separata*. J. R. Clearwater, *J. Insect Physiol.* 18, 781 (1972).

ヤガの1種 *Pseudaletia separata* の雄の hair-pencil を塩化メチレンで抽出し, 3種のカラムによる GLC で分析し, さらに質量分析を行なって, ベンツアルデヒドの含有されることを見出した。雄の hair-

pencil における量は, 羽化後2.5日目まで最高に達し漸次減少する。一方, 交尾するのは, 羽化後4日目が多い。

ベンツアルデヒドの作用は, 一定の空気の流れの中においた 60×6cm の小さい容器に10匹の処女雌を入れて, 行動を観察して調べた。雌は, ベンツアルデヒドがあるとじっと動かないものが多くなり, しかも, 容器の両端のガーゼに集る。従って, 雄のフェロモンは, 静止作用 (arrestant) があるものとみなされる。(高橋正三)

〔教官公募〕

名古屋大学農学部助教授

名古屋大学では農学部農学科害虫学講座の助教授を公募しており関係機関に文書を以ってご依頼しておりますが, 応募またはすいせん希望の方は下記へお問い合わせ下さい。提出書類のメ切りは, 47年9月20日(水)必着です。

〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部
害虫学助教授選考委員会

昭和47年8月25日印刷 昭和47年8月31日発行

防虫科学 第37卷—III 定価 ¥ 800.

個人会員年1500円 団体会員年3000円 外国会員年U.S. \$6

編集者 高橋正三 石井象二郎

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所
京都市左京区吉田本町 京都大学内
(振替口座・京都5899)

印刷所 昭和印刷
京都市下京区猪熊通七条下ル

賛助会員

小林政株式会社
三共株式会社
住友化学工業株式会社

大日本除虫菊株式会社
武田薬品工業株式会社

維持会員

朝日農薬株式会社
アース製薬株式会社
宇部興産株式会社
大阪化成株式会社
科研化学株式会社
花王石鹼株式会社
協和醗酵工業株式会社
キング化学工業株式会社
クミアイ化学工業株式会社
呉羽化学工業株式会社
サンケイ化学株式会社
三洋化成工業株式会社
塩野義製薬株式会社
大正製薬株式会社
高砂香料工業株式会社
株式会社立石春洋堂
トモノ農薬株式会社

長岡駆虫剤製造株式会社
長瀬産業株式会社
日産化学工業株式会社
日本化薬株式会社
日本曹達株式会社
日本特殊農薬製造株式会社
日本農薬株式会社
フマキラー株式会社
北興化学工業株式会社
三笠化学工業株式会社
三菱瓦斯化学株式会社
八洲化学工業株式会社
株式会社柳本製作所
山本農薬株式会社
吉富製薬株式会社
ライオンかとり株式会社

(五十音順)

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Toshio FUJITA, Hiroshi FUKAMI, Yuzo INOUE, Shoziro ISHII,
Minoru NAKAJIMA, Fumiki TAKAHASHI, Shozo TAKAHASHI, Syunro UTIDA

CONTENTS

Originals

11. Inheritance of Sevin-Resistance in the Housefly, *Musca domestica nebulosa* Fabr.
Musharraf A. Ansari..... 83
12. Nouvel Ester Cyclopropanecarboxylique Insecticide (No.6). Efficacité insecticide de “Butéthrine”, nouveau pyréthroïde
Akifumi HAYASHI, Ichiro TANAKA et Kaoru SOTA..... 86
13. The Resistant Level of the Housefly to Several Synthetic Insecticides in Kochi Prefecture, Japan
Akifumi HAYASHI, Satoru MUKAI and Sawako MATSUZAKI..... 91
14. Purification and Some Properties of Insect Brain Hormone Extracted from Silkworm Heads
Junko Nishiitsutsuji-Uwo..... 93
15. Studies on Pyrethroidal Compounds Part III. Photostability of Pyrethroidal Compounds
Yasuo ABE, Kosuke TSUDA and Yoshio FUJITA.....102
16. The Fundamental Research to the Application of Systemic Insecticides (IV) Residues and Half-life of Vamidothion in Spinach
Take ISHIGURO, Ichiro TOYODA, Tetsuo SAITO.....111

Review

Mechanism of Herbicidal Action

Seizo SUMIDA.....116

Abstracts

.....115, 122

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan